

幼保小の 架け橋 プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

第2回接続期研修会



講演会「NICU 命の授業～子どもとご家族の生きづらさの緩和を目指して～」



講演会にお迎えしたのは、神奈川県立こども医療センターの周産期医療センター長・新生児科部長の豊島勝昭先生です。

綾野剛主演のドラマ「コウノドリ」の医療監修をされた先生という、「ああ！」と思われる方も多いことでしょう。お忙しい中駆けつけてくださった、やさしい笑顔の豊島先生のお話により、会場の皆が聞き入りました。

『高い山(長生き)を願いすぎて、足元の花(日々の奇跡)に気づけないような医療にならないようにしたい』という言葉がとても印象的で、医療だけでなく保育にも当てはまると思いました。(園関係者)

見えないところで皆何かを抱えているという視点が、いつの間にか弱くなっていったように思う。また、一方で『理解したい』という一方的な善意が『根掘り葉掘り聞きたがる』押し付けになり相手を苦しめていないか？おこがましい『支援者』に自分がなっていないかを問われている気がした。

(園関係者)



「その子に障害があることが障害ではなく、その子の周りの人の支援や目や考え方などが障害となることがある」という言葉が心に響いた。養育レジリエンスとは「困ったときにへこたれない力・家族愛」を説明されていたこともとても印象的だった。(学校関係者)

第3回接続期研修会

公開保育@鳩の森愛の詩瀬谷保育園

登園してきた子どもたちが裸足になって園庭で走り回ったり、高いところにもぐいぐい上ったりして遊んでいる姿から始まった公開保育当日でした。



「育つ力が子どもの中にある」という「観」をベースに、「目の前にいる子が安心して自己発揮できるようにするにはどんな工夫をしたらいいのか」を一緒に話し合っています。

環境の工夫に正解はなく、その時のその子の状況によっていろいろです。ぴったりの環境に出会うと、子どもはとても安心して落ち着いて生活するようになります。(鳩の森愛の詩瀬谷保育園の保育士の話より)